

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心のある場所でありたい。人と人、心と心のつながりを忘れない。」を理念に掲げ、地域社会との交流行事に取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、「家庭の延長として安心して暮らせる心と心とのつながりの実現」を図るため、毎日入居者全員に声掛けをしながら、見守り支援等に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームのパンフレットを作成している他、入居者家族に「ひなたぼっこ」と名付けたホーム便りを送付し、啓発に取り組んでいる。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の保育園や自治会の行事などに積極的に参加しているため、地域の方々との交流が盛んになっている。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の「空き缶やゴミ拾い」に参加するとともに、ホーム主催の文化祭に地域の参加を呼びかけるなど、地域の方々と交流している。また、保育園やボランティア、近隣の小中学校や専門学校の生徒を体験学習として受け入れている。	

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>電話での相談について、茨城県認知症介護アドバイザーや専門の職員が様々な形で対応している。</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の意義を理解し、評価結果を踏まえ、課題の改善に取り組み、サービスの質の向上を目指している。前回の課題になった入浴時間帯の工夫、ケアプランの説明についても、改善に向けて取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族代表を委員とする運営推進会議を2ヶ月に1度開催しており、報告や行事等を含めた話し合いを行っている。会議での意見や質問・要望等を記録・保管し、サービスの向上に努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市との関係作りがとても重要であることを認識し、常に担当者と連絡を取り合うなど、連携・協議をしながら、サービスの向上に努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度・権利擁護を利用している入居者も実際におり、個々の必要性を判断し、家族と話をしながら、対応している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての表を休憩室に掲示し、日々職員に意識させている。また、虐待についての参考文章等を職員に渡し、知識と理解が得られるようにしている。研修会や勉強会にも参加させている。</p>		

4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問をなくせるように、契約には必ず時間を取り、家族の話をよく聞き、納得していただけるように努めている。また、看護員を同席させ、生活の中での医療面での不安や希望を確認し、対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内の廊下に苦情箱を設置。また、苦情ノートも作っている。運営推進会議へ家族も出席してもらい、自由に意見を述べる機会を作るとともに、入居者から出た苦情は真摯に受け止め、迅速に対応できるように取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームたより「ひなたぼっこ」を発行し、毎月家族に配布している。入居者一人一人の生活の様子や行事の予定、必要に応じて金銭の受払い状況等を報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回全家族を対象にアンケートを実施し、意見収集を行うとともに、要望等に迅速に対応できるように検討している。また、行事等に家族の参加を促し、意見や要望を聞く場を設けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見はとても大切であると考えており、利用者の状況やホーム全体の運営について、意見を聴取するように配慮している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の日常生活を考慮しながら、夜勤も含めた適切なローテーション勤務を組んでいる。また、私用や体調不良等で休む場合も、勤務をうまく調整し、職員の負担にならないように配慮している。		

18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>複数の施設を運営しているが、職員の希望をきちんと考慮している。職員の採用にあたり、家族経験者（既婚者）を優先するなど、利用者のダメージを予防するように配慮している。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員を計画的に研修会に参加させるとともに、研修結果を全体会議にて報告させている。また、2ヶ月に1度苑内において勉強会を開催し、知識と教養を高める取り組みをしている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>複数の福祉施設を運営する中での経験、県事業者協議会からの情報収集や事業者間交流を行い、情報を管理者や職員に提供している。また、管理者が市町村や関係機関からの情報を職員に提供するとともに、サービスの質の向上に努めている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の休日には福利厚生施設として契約している温泉の利用を促している。また、運動クラブ（バレエボール）等でも、心身をリフレッシュできるように努めている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員一人一人が年間目標を決め、その達成に向けて取り組み、3ヶ月ごとに経過等自己確認と管理者からのコメントを入れ支援している。また、管理者と職員が自分の意見をきちんと言い合える環境作りに努めている。</p>		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と多く関わる時間を持ち、その中で本人の不安や価値観、生活歴等を理解し、職員全員が共通の情報を持ってケアにあたれるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の相談の段階より、家族がどのようなことで悩んでいるのか、何を求めているのかなど、よく話を聞きながら、最善の方法を取っていきけるよう、また良好な関係が築いていけるように対応している。		
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望していても満床ですぐに入れない時は、他のサービスもあることを説明・紹介し、今現在の必要に応じたサービスが提供できるように援助している。		
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を希望される方には、事前にホームの雰囲気や利用者に馴染める様に訪問して見学をしてもらうなど、納得してから入居していただけるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は笑顔を絶やさず、入居者の立場で共に喜び、楽しみを共感できるように支援している。また、入居者一人一人が能力に応じて役割を発揮できるように配慮している。		

28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族が気軽にホームに来られるように、来苑時には入居者とゆったりした時間が過ごせるように、居室の他、和室や応接室などを利用していただくように配慮している。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族が来苑された時に、入居者とともに願いや願望を聞くようにしている。来苑の少ない家族には月に1度、状況を報告するとともに、家族の意見を聞いている。また、入居者、家族双方の思いを理解し、よりよい関係が継続していけるように援助していく。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>自宅が近所で「家に帰りたい」と訴えてくる方などに対しては、職員が一緒に行くなどしている。また、行きつけのお店なども要望によって対応している。</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>居室に閉じこもることがないように、レクリエーションや行事などの参加を促し、生活のリズムを作りながら、利用者同士の関わり合いを支援している。</p>		
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>利用者が亡くなられても、家族がボランティアに来てくれている（カラオケ歌謡ショー）。また、家族には何かあった時には、いつでも相談してくださいと必ず伝えている。</p>		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の生活歴を把握するとともに、希望や意見を聞く、また言葉や表情から推察し、利用者の希望に沿ったサービスを提供できるように努めている。そのため、普段から入居者と関わる時間を多く持つようにしている。</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に家族からこれまでの生活歴や暮らし方等を聴取しファイルにしておき、職員全員がその情報を共有できるようにしている。また、生活の中で本人といろいろな話をし、その情報をケアプランに反映できるようにしている。</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人一人で生活のペースやリズムが違うため、その人らしい生活を送っていけるように職員は温かい声掛け、見守りを行っている。</p>		

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当の職員が入居者のカンファレンスを行い、検討の結果を本人や家族に説明、同意を得てケアプランを作成している。また、本人や家族との会話の中から得られる情報もケアプランに反映できるようにしている。</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状態に変化があった時は、その都度ケアプランの見直しをしている。面会に来られる家族には本人の状況、ケアプランの内容を説明している。また、面会になかなか来られない家族には、ケアプランを郵送し、内容を確認してもらっている。</p>		

38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌・夜勤日誌・ケース記録に一人一人の日々の状態を記録しており、入居者の小さな変化にもすぐに気付けるようにしている。また、その中から援助の内容を具体化できるように努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望による、外出や外泊を自由に出来るようにしており、急な来苑からそのまま一緒に食事に出掛ける、病院への受診や送迎等、あらゆるケースに対応できるようにしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	いろいろなボランティアや学生、実習生の受け入れを行っている。生活上必要な避難訓練なども定期的に行っている。民生委員の方と定期的に話す機会を持ち、地域の情報を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅介護支援事業所に来る、地域のケアマネジャーや事業者と話をするようにしている、また、居宅のケアマネジャーからも必要な情報を得ている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、要支援者はいないが、運営推進会議に包括の職員が参加しているため、その時に話をする時間を作り情報を得ている。		



43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医に受診できるように配慮するとともに、協力医療機関と協力し、必要に応じて適切な医療が受けられる体制を作っている。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>年に2回の健康診断の他、認知症に詳しい医師に定期的に診ていただいております。より症状が難しい入居者に対しては、専門医に診ていただいております。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>正看護師が日常の健康管理や医療活用の支援を行っており、その他医療に関する事は協力医療機関と随時連携を取りながら、情報の共有を図っている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した場合は、洗濯物や着替え・身の回りの物等を定期的に持って行き、その時に医師、看護師から情報を得て、退院に向け家族と調整を行うようにしている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時の契約時、また重度化してきた時に再度、家族と終末期の希望等について話し合い、その希望に応じて全職員や協力医療機関が支援していくようにしている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化した場合や終末期には家族とよく話し合う機会を持ち、医療的なことが増えてきた時は、対応できない場合があることを理解していただく。そして、訪問診療など、ホームで安心して過ごしていけるような対応も行っている。</p>		

49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居時には今までの生活歴、暮らし方、本人のペースなどをよく聞き、自宅での生活の延長となるように支援していく。また、退居される時は、ホームでの生活状況、活動などを提供し、本人がスムーズに生活していけるような支援も行っている。</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者一人一人の認知症の状態や生活歴を把握し、意思を尊重している。また、言葉使いに注意しながら、優しい声掛けを行っている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>食事を選択できる日を毎月設けたり、買い物、外出、入浴の日や時間の希望を聞くなど、入居者が希望を出したり、自分で決めることの出来る場面作りを行っている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人一人がその人らしくその人のペースで暮らせるように配慮するとともに、趣味や買い物・散歩等の希望に沿った支援をしている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>季節に合った衣類を着用していただけるように支援している。利用者の希望に応じて、理美容できるように、地域の理美容院に協力を得ている。</p>		

54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と同じテーブルで楽しく食事を食べたり、片付け等の声掛けをしながら、ふれあう時間を持っている。また、月1回は選択食や行事食を取り入れるようにし、食事が楽しいものとなるように工夫している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	週に1度は買い物注文の希望を聞き、希望に応じて買い物へ一緒に出掛けたり、利用者が自分で決めることのできる場面作りを行っている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を基本にしており、入居者一人一人の排泄パターンを把握し、時間に応じて声掛け誘導を行っている。また、おむつはずしに向けた取組みにも力を入れている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、夜間帯に入浴を希望されている入居者はいないが、希望があった時には対応できる体制は作ってある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中できるだけレクリエーションなどへの参加を促し、生活のリズム作りを行っている。眠れずに居室を離れた入居者が、共有空間内の和室で横になれるように誘導するなど、臨機応変に対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗い物や洗濯物たたみ等、入居者の特技や生活歴がいかしていけるように支援している。また、野菜作りや花壇の手入れなども楽しんで行えるように支援している。		


60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の管理は基本的には事務所で行っているが、本人より訴えがあった時は、職員が見守る中でお金を使ってもらい、日常的な金銭感覚が無くならないように支援している。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の希望に応じて近隣へ散歩に出掛けたり、車を利用して買い物屋ドライブ等への外出にも取り組んでいる。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>定期的にお花見、遊園地、水族館などに出掛けたり、近隣への行事にも参加できるように支援している。また、家族との外出の機会も気兼ねなく出来るように支援している。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>公衆電話を設置しており、自由に電話ができるように配慮している。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>家族が気軽に訪問でき、入居者とゆっくりとした時間が過ごせるように配慮している。来苑時は、居室等で過ごす他、応接室や和室を用意しており、家族や友人・知人が気兼ねなく利用出来るようにしている。</p>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は身体拘束に関して正しく理解しており、身体拘束は行っていない。また、職員へは身体拘束についての参考文章等を手渡し、知識・教養が高められるような取り組みをしている。</p>		

66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関にはセンサーを設置しているが、職員は常に入居者の所在確認を行うように徹底している。また、外からは自由にホームに入る事ができ、閉鎖的にならないように配慮している。</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>昼間は各ユニットごとに職員がおり、常時見守りを行っている。夜間は2時間おきに巡視、その他入居者の状態の合わせて、訪室や見守りを行うようにしている。</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>入居者の能力・状態に応じて、個別に管理している。危険と感じた場合には、入居者と家族に同意を得たうえで、施設管理とし、必要に応じて使えるようにしている。</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故が起こった場合は、速やかに事故報告書を作成し、事故原因等について職員会議でケアの細部まで確認を行っている。ひやり・ハットも作成し、サービスの改善に向けた話し合いを行い、検討結果を記録している。</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>緊急時の対応マニュアルを作成し、常勤の看護師と連絡を取り、すぐに対応できる体制になっている。また、苑内の研修においても急変時の対応について勉強している。</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害対策マニュアルを作成し、職員に周知している。また、災害時や緊急時に備え、避難訓練等も定期的に行っている。</p>		

72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人一人の状態、病状を家族にきちんと伝え、現在起こりうる状態について説明し、ホームとしてできる対応に同意を得ている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝・夕にミーティングをおこなっており、入居者一人一人の状況を申し送っている。異変に気付いた時には、常勤の看護師に報告を行い、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬は1週間分を保管しており、正しく内服できるよう、職員は薬の内容等について正しく理解している。入居者の服薬状況、体調の変化による投薬の変化を職員全体が把握するように申し送っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	定期的な水分補給を含め、入浴後やその日の気温に応じて水分補給を行っている。また、日常的に体を動かし便秘を予防するとともに、看護師と連携し、必要な対応を取っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きや義歯の洗浄等の支援を行っている。また、協力医療機関の歯科医院にて、異常があった時は、すぐに対応していただいている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事は管理栄養士がカロリー計算を行ったものが出されている。また、入居者の状態に合わせた調理や食事形態にて提供している。状態が悪い入居者については、摂取状況を観察し、記録している。		

78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成し、職員がその防止の必要性について理解できるよう、情報を共有している。また、感染予防委員会を中心に感染症についての取組みを強化している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを作成し、設置しているとともに、冷蔵庫内のチェック（賞味・消費期限等）、まな板等の洗浄を細かに管理している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の立地の関係により、道路からホームの玄関先が見えにくくなっているが、玄関先には季節の野菜や草花を育てており、手作りの表札を掲げるなど、家庭的な雰囲気作りに配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、季節に応じた飾り物を付け、室内の日差しや明るさを確保できるように工夫してある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い居室、食堂、和室を設置しており、ゆったりと過ごせる空間になっている。また、屋外にはベンチを備えるなど、利用者や家族が自由に過ごせるように工夫している。		

83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には入居者が自宅で使っていた家具等を持ち込んでおり、家族との思い出の写真を貼るなど、それぞれの思いを大切にしている環境となっている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>温度を適切に調整するとともに、入居者の体感温度を確認して衣類の調整をする等の工夫をしている。また、毎朝換気を行い、空気の入替えを行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内はバリアフリーとなっており、不自由なく過ごせるように工夫してある。また、居室内も入居者の希望を考慮しつつ、安全に過ごせるように家具等を設置している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居者一人一人の居室には表札を掛け、本人の居室だと分かるようにしている。また、居室の手すりは赤色、トイレは黄色、共有スペースは緑と色分けされている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>苑庭には季節の草花を植え、畑には野菜を育てるなど、入居者が楽しんで過ごせるように努力している。また、一休みして過ごせるベンチも設けている。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)